



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：エルサレムの地位に関する EU との関係

(11月12日付ハアレッツ紙)

11月12日付けハアレッツ紙は、EU議長国であるスウェーデンが、エルサレムをイスラエルおよびパレスチナの首都とするよう求めるイニシアティブを発表したことについて報じている。概要は以下の通りである。

1. イスラエルは、EU議長国であるスウェーデンが、エルサレムの地位についてEUの立場をパレスチナおよびイスラエルの首都に変更しようと試みていることを非難した。
2. 最近、イスラエル外務省は、同イニシアティブの阻止に取り組んでいる。イスラエル政府高官筋によれば、イスラエル外務省は在EUのイスラエル大使館に対して、スウェーデンの同イニシアティブに関して排除するよう訓令を発出した。

ハアレッツ紙が入手した同訓令には、議長国としてスウェーデンが配布した公式文書やスウェーデン政府高官の発言に関する報告が含まれており、その中にはエルサレムが2カ国の首都であることが言及されている。また、同訓令には、一部のEU諸国は、エルサレムが2カ国の首都であるという発言およびその用語の使用が、事前に調整されたものでないと指摘する一方、スウェーデン側はEU諸国の総意であると主張している点が記載されている。

3. 訓令を受け、まず在欧州のイスラエル大使館は、同イニシアティブが幅広い支持を集めているかについて調査し、その数日後、各国政府に抗議の意を伝達した。同時に、イスラエル国内では、27カ国のEU加盟国の大使が招集され、パレスチナとの最終地位交渉の核心的議題に関する協議の結果をはじめから決定することにつながる、との抗議の意を伝えた。
4. 上記のイスラエル側の抗議を伝える場に出席した欧州の外交官は、スウェーデンのイニシアティブがパレスチナとの和平プロセスに貢献するEUの努力を損なうものであると述べた。また、エルサレムに関する新たなEUの立場は合意されていないと語った。